



7 坊っちゃんカラクリ時計
道後温泉駅前の放生園にあり、道後温泉本館振鷺園をモデルにデザインされている。1時間おき(季節によっては30分おき)に坊っちゃんやマドンナら小説『坊っちゃん』の登場人物、入浴者の人形が音楽に合わせて現れる楽しい時計だ。



6 道後公園・湯築城跡
中世にこの地を治めていた河野氏が本拠地としていた湯築城跡に整備された公園。国の史跡に指定されている。
■住/松山市道後公園
■問/☎089-941-1480
※入園自由



5 道後商店街
道後温泉駅と道後温泉本館を結ぶL字型の商店街で、別名「道後ハイカラ通り」。かんきつや松山銘菓など特産品を扱う土産物店が多く、趣のある喫茶店や郷土料理を味わえる飲食店など約70軒が並び。



1 道後温泉本館
休憩室利用付きなど4つの入浴コースを用意。夏目漱石ゆかりの「坊っちゃんの間」や又新殿の見学も可能。
■住/松山市道後湯之町5-6
■問/☎089-921-5141
■営/6:00~23:00(コースにより異なる)
無休(12月に1日臨時休館あり)



2 道後温泉別館 飛鳥乃湯泉
「太古の道後」をテーマに、道後温泉にまつわる伝説や物語などを「愛媛の伝統工芸」と「最先端のアート」をコラボレーションした作品で上質な温泉の癒しとともに、感性を刺激する空間を演出。
■住/松山市道後湯之町19-22
■問/☎089-932-1126
■営/7:00~23:00(コースにより異なる)
無休(12月に1日臨時休館あり)



3 椿の湯
道後温泉街にあるもう一つの外湯。レトロな本館に対し、こちらはモダンな雰囲気地元民に愛されている。
■住/松山市道後湯之町19-22
■問/☎089-935-6586
■営/6:30~23:00
無休(12月に1日臨時休館あり)



4 足湯・手湯
道後温泉駅前の放生園を筆頭に、道後界隈の10カ所に整備された足湯と手湯。放生園の足湯や第4分湯場の手湯のほか、ホテルの足湯も、誰でも無料で利用が可能。施設によっては足湯に浸りながらカフェを楽しめるところも。



道後温泉本館
公眾浴場で初めての重要文化財です!

道後温泉別館 飛鳥乃湯泉
市営では33年ぶりの新温泉施設です。



湯けむりとアート探訪

「伝統」と「最先端」が織りなすおもてなし

漱石さんも子規さんも、そぞろ歩いた湯のまち道後。「いい、加減。」のお湯に浸り、心も体も温まったら、アートの彩られた境界をひと歩き。「伝統」と「最先端」が共存するまちの魅力を満喫。

道後温泉の歴史は、今から3000年前に遡ります。伝説によれば、空から舞い降りた白鷺が、こんこんと湧き出る湯で傷を癒していたことから発見されたとか。以来、多くの文人墨客を癒やしてきました。その温泉街のシンボルとして親しまれているのは、1894(明治27)年、道後湯之町初代町長・伊佐庭如矢の英断により、改築工事を果たした道後温泉本館です。松山生まれの俳人・正岡子規や彼の盟友である夏目漱石も足を運んだといわれています。「神の湯」「霊の湯」の2種類の浴室、大広間や個室の休憩室、日本で唯一の皇室専用の浴室「又新殿」などを備えた立派な温泉は、1994(平成6)年に公眾浴場としては初めて国の重要文化財に。また2009(平成21)年にはミシラン・グリーンガイド・ジャポン



豪華絢爛の装飾美です!

In the area around Dōgo hot springs, which was visited by the great literary figure Natsume Sōseki and haiku poet Masaoka Shiki, there are many places of interest. One of the main highlights is the Dōgo Onsen Main Hall, which has been designated as an important cultural property of Japan. The art events that have been taking place in recent years in the area are also very popular.

また、2017(平成29)年にオープンした「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」は、聖徳太子の来浴伝説が残る飛鳥時代をイメージした「湯屋」をコンセプトに、内部は愛媛の伝統工芸を生かした展示品で装飾されています。銘板は、世界遺産・法隆寺の大野玄妙管長に揮毫いただきました。日本最古の名湯に浸り、湯上がりに浴衣姿でアートの世界を楽しめるのは、湯のまち道後の新しい旅のスタイル。おもてなしが息づく商店街や明治の面影を残す道後温泉駅、あちこちに点在する足湯を巡り、温泉街を見守り続ける寺社をお参りするなど、心に残る旅を満喫できます。

伊佐庭如矢とは

伊予国の町医者の子として生まれ、維新後は愛媛県吏員となり、松山城を廃城から守る。その後、郡長や中学校校長、欄宜などの要職を歴任。1890(明治23)年、62歳のときに道後湯之町の初代町長に就任し、老朽化していた道後温泉本館の改築に取り組む。巨費が必要であることから、周囲から大きな反対を受けたが、自らの報酬を返上し、地道に反対派の説得を続け、今の形に改築する。また観光客の誘致を目的に道後鉄道を敷設。道後温泉繁栄の基礎を築いた。



2014年から始まった道後のアートフェスティバル。今回で4回目を迎え、スケールも大きく「道後オンセナート2018」として4月14日にグランドオープン。地元の方の「道後のまちに新たな魅力を」という気持ちがある。そのフェスティバルの開催を支え、その継続した取り組みにより、「楽トラベル」の「ココロ潤う。おんな一人旅に人気の温泉地ランキン」で2014年より4年連続1位を獲得し、現在、道後温泉は女子旅の聖地とも言われるようになり、何度訪れた。何度も訪れた。道後・松山を目指し、今後、も地元・アートのリスト・行政と力を合わせていきたいと思っています。



アート作品で彩られた道後温泉本館



道後アートプロジェクト 地元広報窓口
清水 淳子さん

コラム
ここがいい、加減。

何度も訪れたい道後・松山を目指して